

病気から考える子宮頸がんワクチン



1、子宮頸がんという病気について

◆日本における子宮頸がんの最近の動向は？

日本において子宮頸がんは年間約1万人が発症し、約2800人が死亡しており、患者数・死亡者数とも近年増加傾向にあります。特に年齢層に比較して20歳から40歳代の若い世代で増加しています。

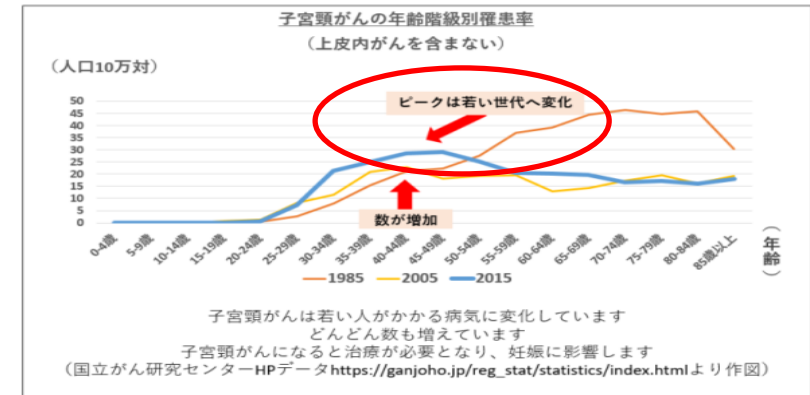
◆子宮頸がんはどのようにして起こり、どのように予防できるのか？

子宮頸がんの95%以上は、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染が原因です。子宮頸部に感染するHPVの感染経路は性的接触と考えられます。性交渉を経験する年頃になれば、男女を問わず、だれでもHPVに感染しますし、そのような年頃の女性は誰でも子宮頸がんを発症する危険性があるのです。HPVに感染してから子宮頸がんへ進行するまでの期間は、数年～数十年と考えられます。発がん性HPVの中で、とくにHPV16型、HPV18型は特に子宮頸がんへ進行する頻度が高く、スピードも速いと言われています。しかし、これらの感染はHPVワクチンによって防ぐことができます。

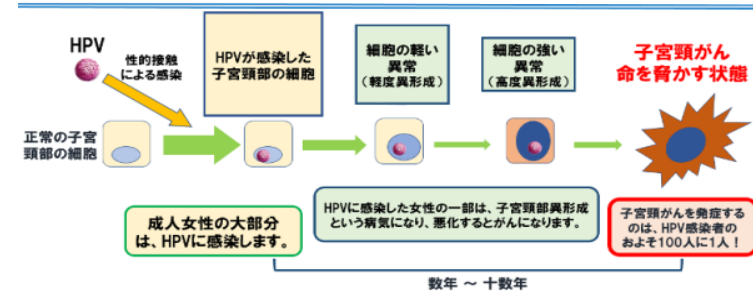
◆子宮頸がんの治療法は？ 治療後の後遺症にはどんな症状があるか？

がんになる前の状態やごく初期の早期がんの段階までに発見されれば、子宮頸部円錐切除術による子宮の温存も可能です。しかしながら円錐切除術はその後の妊娠における早産のリスクを高めたり、子宮の入り口が細くなったり、閉じてしまう可能性などのリスクを伴い、将来の妊娠・出産に影響がでる可能性があります。

一方進行したがんに対しては子宮や卵巣を摘出、リンパ節を広く取り除く手術や放射線治療、抗がん剤による化学療法などが選択されます。子宮頸がんの治療成績はかなり向上してきていますが、依然として進行したがんの予後は不良であり、またこれらの治療により救命はできたとしても、妊娠ができなくなる、排尿障害、下肢のリンパ浮腫、ホルモン欠落症状など様々な後遺症で長く苦しむ患者さんも少なくありません。



発がん性HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染と子宮頸がんの関係



2. HPVワクチンについて

◆日本で承認されているHPVワクチンはどのようなものか？

国内で承認されているHPVワクチンは2価と4価の2種類があります。2価ワクチンは子宮頸がんの主な原因となるHPV-16型と18型に対するワクチンです。一方4価ワクチンは16型18型、良性の尖圭コンジローマの原因となる6型、11型の4つの型に対するワクチンです。これらのワクチンはHPVの感染を予防するもので、すでにHPVに感染している細胞からHPVを排除する効果は認められません。したがって、初めての性交渉を経験する前に接種することが最も効果的です。なお、海外ではすでに9つの型のHPVの感染を予防し、90%以上の子宮頸がんを予防すると推定されている9価ワクチンが接種されていますが、日本ではまだ承認されていません。

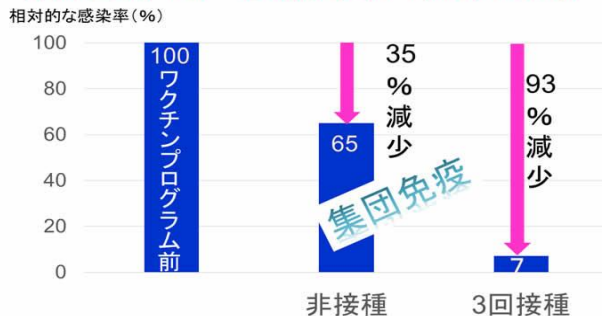


◆HPVワクチンの効果は国内外ではどのように示されているのか？



HPVワクチン接種を国のプログラムとして早期に取り入れたオーストラリア・イギリス・米国、北欧などの国々ではHPV感染やがんになる前の病変

オーストラリア HPV感染 激減
ワクチン世代 18~24歳 (6,11,16,18型)



が有意に低下していることが報告されています。これらの国々では、ワクチン接種世代と同じ世代でワクチンを接種していない人のHPV感染も低下しています(集団免疫効果といいます)。また、フィンランドの報告によると、HPVに関連して発生する進行したがんが、ワクチンを接種した人においては全く発生していないとされています。

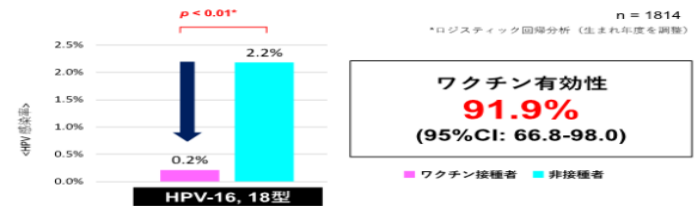
最近の報告では、HPVワクチンと子宮頸がん検診が最も成功しているオーストラリアで 2028年に世界に先駆けて新規の子宮頸がん患者はほぼいなくなるとのシミュレーションがなされました。世界全体でもHPVワクチンと検診を適切に組み合わせることで今世紀の排除が可能であるとのシミュレーションがなされています。日本においてこのままHPVワクチンの接種が進まない状況が今後も改善しないと、子宮頸がんの予防において世界のながれから大きく取り残される懸念があります。

<日本における研究では…>

秋田県、宮城県における研究で20歳~24歳の女性の子宮頸がん検診において異常な細胞が見つかる割合が、ワクチン接種者では非接種者と比較して有意に少ないことが判明しています。日本対がん協会のデータを用いた研究からは、20歳~29歳の女性において子宮頸部の病気になる前の病変と診断される割合はワクチン接種者で有意に少ないことが示されました。

参考文献：日本産婦人科学会HP「子宮頸がんとHPVワクチンに関する正しい理解のために」より

HPV-16, 18型に対する子宮頸がんワクチンの効果 (NIIGATA STUDYより)



子宮頸がんワクチンの
HPV-16, 18型に対する予防効果は90%以上

Kudo R, Yamaguchi M, et al. J Infect Dis. 2019



子宮頸がんワクチンの接種後の副反応について不安なことがある方は医師とご相談ください。